

アイヌタイムズ 第67号 日本語版

★ 毒蛾（2）

第65号にある「毒蛾（1）」もお読みください。

北海道では、ドクガは留萌南部から空知南

部を通過して日高を結ぶ線の南西部にいます。また、海岸線や平野部から低山地にかけての草原を中心に生息しています。

ドクガの幼虫は、通常は、草原の中でハマ

ナス、キイチゴ類、ノイバラなどバラ科の低木を食べています。

つまり、普段は山菜探りや釣りなどでこのような植物のある草むらに入らないと、被害にはあいません。ところが、ドクガは時に大発生すると、バラ科低木のみならず、イタドリ、グミ、タンポポなど草原にあるものはほとんど何でも食べるようになり、これらを食い尽くすと、畑や住宅地内、駅や公園の芝生へ行くことがあります。すると、普段の外出時にも被害が発生します。

幼虫が大きくなって毒針毛の数が増え、かつ分散・移動する6~7月初めと、成虫期の8月には注意が必要です。

幼虫が大発生した後は、有効な防除法はありません。薬剤を散布しても、死んで乾いた幼虫の毒針毛が風に舞い、幼虫と接触しなくても皮膚炎を発症します。

そのため、こうなる前にドクガを発生させないようにしなければなりません。

普段から、幼虫のエサとなるイタドリやノイバラ・キイチゴ類を刈ります。次に、9月から越冬後の翌5月にかけて幼虫が集団を作っている時期に、草原やハマナスの回りなどを見回って、幼虫が多いか少ないか調べて、大発生するかどうか予想します。

通常だと、見つけるのは大変ですが、大発生時は簡単にいくつでも見つけることができます。しかし、調査には経験が必要で、町内会や市町村など地域ぐるみで、計画的・継続的に行うのが理想です。

調査の結果、大発生と判断された場合は、なるべく早く薬剤による駆除を行います。その際、幼虫集団のみに直接十分な量の薬剤を

かけるようにして、他の動物の生息地に影響を与えないようにします。また、薬剤が使用できない場所では、ビニール袋などを使って集団ごと捕まえたりします。

町内会などで計画的に監視している地域も増えていきます。また、保健所では、駆除に関する相談に応じてくれますし、大発生時には注意情報も発信しています。札幌市の生息地域では、札幌市保健所、札幌市土木部、石狩支庁札幌土木現業所、北海道立衛生研究所が一緒に対策チームを作って、発生状況の調査をしたり、駆除などに取り組んでいます。

もしドクガにさわってしまった(あるいはさわったかも知れない)時は、こすってはいけません!

まず、弱い流水で刺さる前の毒針毛を洗い流します。石鹸の泡で毒針毛を皮膚から浮かせて流したり、ガムテープに付着させるのも有効と考えられています。

その後で、皮膚科を受診しましょう。症状に応じて処置してくれるので、かゆみも少なく、早く完治します。

毒針毛が付いた衣類は、素材にもよりますが、洗濯しても毒針毛を完全に除去するのは困難です。また、毒針毛は乾燥状態で1年以上無毒化されません。

なお、より詳しい情報は、北海道立衛生研究所のホームページの特集をご覧ください。

<http://www.iph.pref.hokkaido.jp/topics/dokuga1/dokuga1.html>

[横山 裕之] 沙流・千歳